

要 旨

社会科の学習において、児童の思考力・判断力・表現力を高めるためには、学習問題に対する自分の考えを根拠をもって述べる必要がある要素となると考える。根拠とは、調べた情報から導き出された結論の妥当性を明らかにするもので、結論を述べる時の事実と理由付けである。そこで、本研究では、問題解決的な学習に、自分の考えの理由付けになる「社会的事象を見る視点」づくりを取り入れた。これにより、根拠をもって自分の考えを表現するようになってきた。また、これからの社会科で成長させたい社会的な見方・考え方の基礎がつけられるようになった。

〈キーワード〉 ①社会的事象を見る視点 ②問題解決的な学習 ③自分の考えを表現する

1 研究の目標

社会的事象について自分の考えを表現できる児童を育成するために、中学年の地域社会に関する学習において、社会的事象の特色や相互の関連などについて段階的に考え、表現させる指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

小学校学習指導要領においては、「地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることを通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」¹⁾が重視されている。このために実際の授業では、「問題解決的な学習などを一層充実させることや、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ること」²⁾が求められている。

平成24年度佐賀県学習状況調査のWeb報告書によると、社会的事象、歴史的事象に関わる知識の定着、グラフなどの資料から必要な情報を読み取ること、自分の考えを論述したり、事象の関連や意味を説明したりすることに課題があることが分かった。これらの課題の背景には、学習活動を支える知識・技能の習得から考えたことを自分の言葉で説明するまでの一連の指導がうまく結び付いていないのではないかと考える。

所属校の3年生の実態を見ると、見学やインタビューなどの調査活動に意欲的に取り組むが、調べた事実を整理したり、社会的事象の特色や関連などを説明したりする活動に苦手意識を抱いている。そのため、自分の考えを表現する際に根拠が明確でないことが多い。これらのことから、社会的事象の意味や働きなどについて考えさせたり、考えたことを表現させたりするためには、入門期の3年生から段階的に積み重ねていく指導が必要だと考えた。

そこで、本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、中学年の地域社会に関する学習において、調査活動を行う中で、社会的事象の特色や相互の関連などを考えさせる。その過程において社会的な見方や考え方を養い、考えたことを表現する力の育成を図る指導の在り方を探っていく。学習過程の場面に応じて社会的事象を捉える視点と、比較、関連付ける視点を児童とともに作り上げながら考えさせることで、社会的な見方や考え方が養われれば、自分の考えをもち、それを表現できることにつながり、思考力・判断力・表現力を育成できると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

問題解決的な学習の過程において、児童とともに作り上げた視点を基に、社会的事象の特色や相互の関連などについて考えさせれば、根拠をもって自分の考えを表現できる児童が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 社会的な思考力・判断力・表現力を育成する指導に関する理論研究
- (2) 理論に基づく単元計画づくり
- (3) 授業実践と手立ての検証及び考察

5 研究内容

- (1) 文献や先行研究を基に、社会的な思考力・判断力・表現力の育成するための視点について理論研究を行う。
- (2) 単元計画を作成し、児童の実態に合わせて見直していく。
- (3) 所属校の3年生における単元「物をつくる人は、どことなくふうをしているの」(3時間)と「火事から人びとをどうまもるの」(3時間)を用いた授業実践を行い仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

小学校学習指導要領において、第3学年及び4学年では、内容全体にかかわる能力に関する目標として「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」³⁾ことが求められている。

小原は、社会科が求める「思考力・判断力・表現力」とは、知る・分かるだけでなく、その背景を熟考し、自分なりの意見や考えをもち、それを表現しながら社会への参加・参画を考える力としている。安野は、第3・4学年の「考える力」は学習経験が子どもの問題意識の出発点であり、そこで身に付けた見方が学習の基礎になり、まとめる学習に転移し、新たな事実の発見につながると述べている。澤井は、第3・4学年の目標「地域における社会的事象を観察・調査すること」に対し、観察・調査する観点や質問事項を子どもたちが主体的に決めることができるように指導することが必要であり、予想を話し合う場面を重視している。また、教師が子どもとともに観点をづくり、既習の観点や調べ方を子どもに想起させ活用させることを提唱している。

以上のことから、問題解決的な学習の過程において、児童とともに作り上げた視点を段階的に練り上げるという手立てをとることが、社会的事象の特色や相互の関連などについて根拠をもって表現できることにつながり、思考力・判断力・表現力を高めると考えた。

- (2) 授業の構想

ア 児童の思考力・判断力・表現力を高める問題解決的な学習過程と検証の視点

社会科の学習において、根拠をもって考えを述べることは児童の思考力・判断力・表現力を高めるために重要なことである。根拠とは、調べた情報から導き出された結論の妥当性を明らかにするもので、結論を述べる時の事実と理由付けである。根拠をもって考えを述べるには事実と理由付けの両方が必要である。そこで、2つの視点づくりを取り入れた問題解決的な学習の過程を設定する。1つは、児童が調べた情報から事実を見いだすための「事実を見る視点」づくり、もう1つは、児童が事実に基づいた理由付けを見いだすための「社会的事象を見る視点」づくり

である。

「事実を見る視点」とは、社会的現象を調べる際の切り口で、社会的現象を知るための見方の視点である。具体的には、学習問題に対する予想から生じた疑問(確認しなくてはいけないことや調べなくてはいけないことなど)である。これを基に調査活動を行い、学習問題の解決に必要な情報を収集することになる。

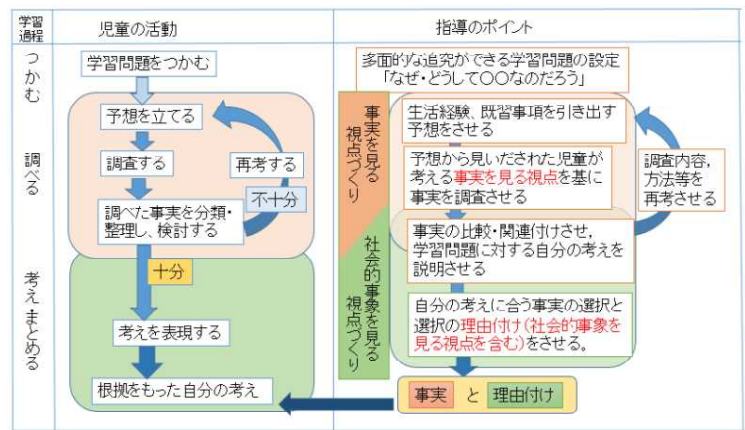


図1 視点づくりを取り入れた問題解決的な学習

「社会的現象を見る視点」とは、

事実の背景にある意味や意図、目的を熟考するための考え方の視点である。児童が、調べた情報を分類・整理し、比較・関連付けをする中で、それらの関連や結び付きに気付いたとき、「社会的現象を見る視点」をもつようになると考える。したがって、学習問題に対する自分の考えを説明させる際に、理由付けの中にその視点が含まれて表現されるものであると考える。このようにして、事実と理由付けを取り入れた学習を通して、根拠をもって、自分の考えを表現できる児童の育成を図りたい。

イ 検証の視点と具体的な手立て

(ア) 【検証の視点Ⅰ】「事実を見る視点」づくりによる児童の見方の広がり

問題解決的な学習過程において、まず、児童に学習問題に対する予想をさせ、予想の妥当性について検討させる。これにより、生活経験や既習事項から予想を考え、予想から生じた疑問を基に調べることをつくるようになると考える。次に、生じた疑問を解決させるために調査活動を行わせる。これにより児童は、「事実を見る視点」をもって、調査活動を行うようになると考える。その後、調べた情報を基に分類・整理させ、問題の解決について検討させる。これにより、児童は学習問題に対する自分の考えを説明しようとする。しかし、最初は生じた疑問が少ないために、「事実を見る視点」が偏ったり足りなかったりすることが考えられる。そこで、問題解決に至らない場合は、生じた新たな疑問から作り出された新しい「事実を見る視点」をもって再び調査活動をさせる。このようにして、「事実を見る視点」づくりを行うことで、児童の社会的現象に対する、見方や考え方が広がると考えられる。

(イ) 【検証の視点Ⅱ】「社会的現象を見る視点」づくりによる児童の表現力の高まり

調べた情報を分類・整理する際に、まず、十分な情報を集めさせる必要がある。その後、調べた情報を「事実を見る視点」に沿って比較させる。これにより児童は社会的現象の類似点や相違点に気付くことができるようになると考える。さらに、類似点や相違点の意味について考えさせるようにする。このことにより、社会的現象の目的や意図などを説明する「社会的現象を見る視点」がつくられるようになる。その後、これまで調べたことの中から問題解決に向けた自分の考えに合う情報と理由付けを選択させる。これにより、「事実を見る視点」に沿った情報と「社会的現象を見る視点」を含む理由付けを根拠に自分の考えを表現するようになると考える。

この2つの視点づくりを通した問題解決的な学習を図ることにより、自分の考えを根拠をもって自分の言葉で表現できる児童の育成につなげたい。

(3) 授業の実際と考察

ア 検証授業 第3学年 単元名 「火事から人びとをどうまもるの」(平成26年2月実施)

(ア) 単元の目標

火事から人々の安全を守る活動に関心をもち、消防署を中心とした緊急に対処する体制、火災現場での活動、また、火事に備える消防署の仕事や地域の消防施設、消防団の活動などについて調べ、人々の安全を守るための関係諸機関の働きと人々の工夫と努力を考えることができる。

(イ) 単元の概略について(全12時間)

本単元では、まず、新聞記事の写真やテレビのニュースを通して、火災の怖さや被害の大きさを感じ取らせ、鹿島市の火災件数のグラフから、火災は、身近に起きていることを捉えさせる。そこで、火災現場の写真を提示し、気付いたことや疑問に思ったことを出させ、「火事になったら、なぜ多くの人が火を消しにくるのだろう。」という学習問題を設定した。この学習問題を追究し、学習問題に対する自分の考えを「事実を見る視点」と「社会的事象を見る視点」を通して表現できるようにするために表1のような単元計画を立て、問題解決的な学習を行う。児童の実態から、「事実を見る視点」が広がるようにゲストティーチャー(GT)の話を聞いたり、火災発生時の連絡体制を調べたりすることを調査活動の中に入れた。

表1 「火事から人びとをどうまもるの」単元計画

時	学習過程	主な学習内容
1	つかむ	○火災の様子から疑問点を出し、学習問題をつくる。 学習問題 火事が起きたとき、なぜ多くの人が火を消しに来るのだろう。
2	調べる	○学習問題の答えを予想し、調べることを話し合い、学習計画を立てる。(検証の視点I)
3		○消防署の方の話を聞き、日頃の活動を調べる。
4		○迅速に消火できるしゅみを調べる。
5		○これまでの調べたことから地域での活動に目を向け新たな課題をつくる。(検証の視点I)
6,7		○地区の消防団の活動について調べる。
8	考え・ まとめる	○新たな問題についてまとめる。(検証の視点II)
9		○学習問題についてまとめる。(検証の視点II)
10		○学校内の防火設備を調べ、火災から守る工夫を考える。
11		○火災以外の災害に対応していることを知り、自分たちでできることはないか考える。
12		○防災のためのポスターを提案し、ポスター作りをする。

イ 検証の視点と検証の規準について

【検証の視点I】「事実を見る視点」づくりによる児童の見方の広がり

「事実を見る視点」をつくる場面で、「人・もの・こと」の3つから具体的な児童の言葉ができたかを求めていく。本単元では、授業において児童が学習問題の解決に必要なたくさんの事実を的確にとらえるために「人・もの・こと」から考えるように促す。教師側から「人・もの・こと」の「事実を見る視点」を与えてはいるが、児童がこの視点を持ち得たかは、具体的な児童の言葉で判断する。

「事実を見る視点」づくりの場面では、児童がこの「事実を見る視点」をもち、つながりが出てくるようにすることが、視点をつくり上げることになると考える。「事実を見る視点」に出てくる具体的な児童の言葉(表2)を2時目と5時目において比較し、「人・もの・こと」の3つから「事実を見る視点」をつくり、社会的事象の見方が広がったかを検証する。

表2 「事実を見る視点」における具体的な児童の言葉

分類 事実に 見る 視点	人										もの										こと																						
	消防署	消防団	通信指令室	警察署	救急病院	ガス会社	電力会社	水道課	地域の人	みんなの	地域、町、市	けが人	逃げ遅れた人	消防(自動)車	ポンプ車	タンク車	はしご車	救急車	水	ホース	消火栓	ヘルメット	消防服	はつぴ	119番	火を消す(消火)	燃え広がらない	うつらない	出動する	知らせる	人を助ける(救助)	人を探す(捜索)	手当て	運ぶ	通行止め(交通整理)	防ぐ	点検	検査	訓練	備える(準備)	早く	急いで、すばやく	24時間

【検証の視点Ⅱ】「社会的事象を見る視点」づくりによる児童の表現力の高まり

調べた情報同士を比較させ「社会的事象を見る視点」がつけられたか。さらに、総合的に自分の考えを表現する場面で、学習問題に対して根拠を挙げて「事実を見る視点」や「社会的事象を見る視点」を通して、自分の考えが表現できているかを検証する。

児童が2つか3つの事実を関連付けたときにつくられるのが「社会的事象を見る視点Ⅰ」である(表3)。この单元では「命を守る」「財産を守る」「協力して守る」である。これらが結び付いて「安全を守る」(社会的事象を見る視点Ⅱ)となり、概念として「安全・安心を守る」(社会的事象を見る視点Ⅲ)となっていくことを目指している。このようにして、社会的な見方や考え方が育成されると考える。ただし、「安全・安心」というような「社会的事象を見る視点」はこの時間だけでつくられるものではないと考える。

表3 「社会的事象を見る視点」における具体的な言葉

事実を見る視点	分類	人			もの			こと			
	具体的な言葉	消防署	消防団	救急病院	消防自動車	はしご車	火を消す	感え広がらない
社会的 事象 を見る 視点	I	命を守る			財産を守る			協力して守る			
	II	安全を守る									
	III	安全・安心を守る									

小学3年から中学3年まで7年間の社会科の学習を通して成長させていくものだと考えている。小学校3年生は社会科の入門期であるため、「社会的事象を見る視点Ⅰ」を養うことをねらい、2つか3つかの「事実を見る視点」を通して「社会的事象を見る視点」がつけられたかを見ていくことにする。

「社会的事象を見る視点」がつけられたかは、「事実を見る視点」に出てくる具体的な児童の言葉を2時目と8時目のワークシートの記述を比較し、自分の考えの理由付けができているか検証する。さらに、9時目に、学習問題に対する自分の考えを述べさせる。そこで、根拠となる「事実を見る視点」と「社会的事象を見る視点」を通じた自分の考えが表現できているか、具体的な児童の言葉(前頁表2と表3)をワークシートの記述から検証する。

ウ 【検証の視点Ⅰ】

本单元では、5月の修学旅行での消防署見学を生かし、消火活動以外の火災に備えた日常の活動について、ゲストティーチャーの消防署の方から話を聞いたり、緊急時の連絡体制について教科書等から調べたりさせた。それにより、地域の消防団の活動について更なる疑問が児童から出された。このことから、「消防署と消防団はどのような違いがあるのか」という新たな課題ができた。その課題に対して予想を立て、調べることを決める時間を検証の視点Ⅰとした。

(ア) 展開 (5時目)

	主な学習活動	教師の働き掛け
つかむ	1 本時の学習の流れをつかむ。 2 これまで調べたことと学習問題を照らし合わせて、説明できないことが新たな疑問となり、新たな課題をつくる。	○ 前時までにつくった「消防署」「消防自動車」「訓練」などの「事実を見る視点」を分類する中で、消防団は欠かせない存在だと気付くようにしくみを図式化しておく。
調べる	3 新たな課題の予想を立てる。 4 調べることと調べる方法を考え、質問したいことや調べることを発見カードに書く。 5 本時の学習を振り返り、次時の内容を知る。	○ 出てきた予想の中から、何を「調べること」にするか選ばせ、2人組で話し合わせ、理由を述べるように指示する。

(イ) 授業の考察

検証Ⅰでは、児童のワークシートに表現された具体的な記述から考察する。2時目から5時目における「事実を見る視点」の増え方によって検証を行った。毎時間、学習問題に対して自分の考えを記述させ、新たな課題にも「人・もの・こと」でのいくつかの見方ができたか見ていった(図2)。学習問題の予想をした2時目は、火災現場に集まった多くの人とする「こと」の記述が多く、13名の児童に見られた。児童は、これまでの生活経験の中から「火を消すこと」「人を助けること」を記述したと考えられる。

4時目は、消防署の仕事に着目して緊急時の連絡体制について調査活動を行ったため、「人」からの「事実を見る視点」は見られない(図2)。学習が進むにつれ、追究過程において「人・もの・こと」に当てはまる「事実を見る視点」が増えてきた。2時目と5時目を比べると、5時目では「人・もの・こと」の3つから視点を見いだした児童が82%(14名)、2つから見いだした児童が18%(3名)となった(図3)。予想をした後の交流活動や調査活動で「人・もの・こと」を意識したことで、「事実を見る視点」が増えたことがうかがえる(表4)。「事実を見る視点」をもつことで、意識して調査活動を行うようになったと考えられる。

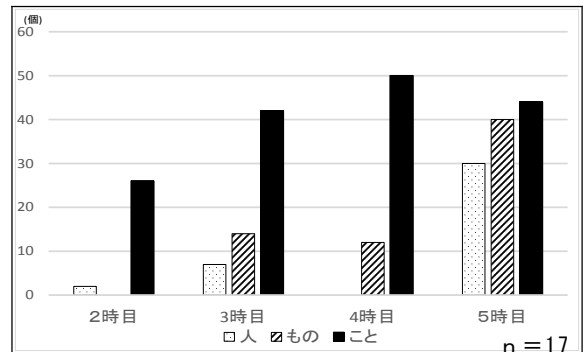


図2 具体的な事実を見る視点の数の変化

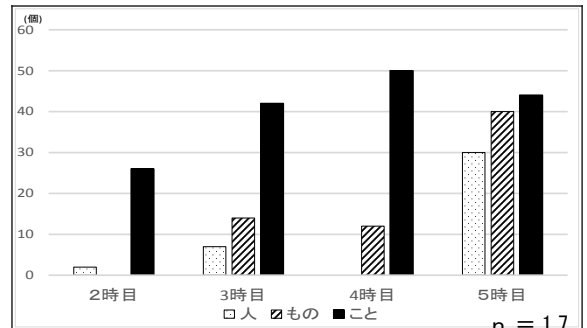


図3 2, 5時目における視点の広がり

表4 人・もの・ことから事実を見る視点の数の変化

時目	児童																		
	1	S	N	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
事実を見る視点	人	もの	こと	人	もの	こと	人	もの	こと	人	もの	こと	人	もの	こと	人	もの	こと	
2時目 (予想)			○		○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
3時目 (GTの話)	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4時目 (調べ活動)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5時目 (新たな予想)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

エ 【検証の視点Ⅱ】

8時目は、6, 7時目の調査活動を行った後の消防署と消防団の違いをまとめる時間である。消防署を調べて明らかになった事実は、「人・もの・こと」に分けてワークシートの表に書き込んでおき、消防団との共通点や相違点が比較しやすいようにしておいた。9時目は、まとめとして学習問題に対する自分の考えを表現する時間である。

(ア) 展開(8時目, 9時目)

	主な学習活動	教師の働き掛け
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。	○ 人とももの相違点から、役割の違いがあることを表からつかませる。
／	発見カードを整理して、消防しょと消防だんのちがいについて考えよう。	
調べる	2 見学時にメモをした発見カードを消防署の仕事と比較しながら「人・もの・こと」ごと	○ 表を比較させ、共通点から火事を消したり、人を助けたりすることは同じで、それに備え

／ まと める	に整理する。 3 整理した表から、共通点、相違点を見付け、 消防署も消防団も何のために働いているか考 える。 4 学習のまとめをする。 5 学習を振り返り、次時の内容を知る。	た活動も同じであることをつかませ、その目 的を問う。 ○ どちらも地域の安全を守るために、危険な 現場で働いていることを、G Tの話をビデオ で見せて想起させ、まとめとする。
つか む／ 調べ る ／ まと める	1 本時のめあてをつかむ。 学習問題の答えをまとめよう。 2 これまでの発見カードやワークシートを振 り返り、使った方がよい言葉を考える。 3 グループで交流活動を行い、全体の交流活 動で学習の目標をつかむ。 4 学習のまとめとして学習問題に対する自分 の考えを書く。	○ これまでつくり上げてきた視点をまとめた 表を提示し、「人・もの・こと」から考えるよ うに促す。 ○ 何のためにしているか問い、「社会的事象を 見る視点」である目的に関することを述べる ようにする。

(イ) 授業の考察

8時目では、児童が、具体的な「事実を見る視点」から関連付けを行い、「社会的事象を見る視点」をつくることのできたかを検証する。児童には、消防団の人はどんな人か、どんなものを使っているか、どんなことをしているのかを意識するように助言し、6、7時目の調査活動に向かわせている。そこで、新たな疑問を調べることにより、学習問題の解決につながる「事実を見る視点」が増えた(図4)。その中でも、消防署と消防団の違いを意識して調べているため、「人」の視点が増えたと考えられる。そして、それまでの調査活動で獲得した「もの」と「こと」を結び付けることができ、8時目にこれまでの事実を見る視点に関連付いて、社会的事象を見る視点がつくられた

ことがうかがえる。消防署と消防団を比較させたことにより、類似点や相違点を見付け、そこから「協力」という新しい社会的事象を見る視点をつくり出した(資料1下線部)。

学習問題に関する「多くの人」の役割が分かり、「協力」しているという目に見えない部分が見え、関連付けができたことが分かる。これまでの追究活動で得た事実を見る視点が、自分の考えを理由付けるための根拠となっていると考えられる。また、事実の目的となる社会的事象を見る視点の言葉の数も増えている(図4)。

☆消防署と消防団をまとめた表を見て、どのように問い返したか
T「消防署の人と消防団の人の違うところはあるかな。」
C「消防署の人は仕事で、消防団の人はほかの仕事があります。」
C「消防署のお手伝いをしています。」
T「そうだったね。消防署と消防団の人数はどうだったかな。」
C「消防署が30人です。」
T「消防団はどうだったかな。原さんはどう言われたかな。」
C「鹿島市は782人でした。」
T「火を消す人数は足りたのかな？」
C「足りないから手伝いに行っている。」
T「この図(火災時の連携している図)にあるように手伝いに来ていたね。」・・・(中略)
T「火事を消すとき、使うものは違いましたか。」
C「ヘルメットが違います。」
T「なぜ違うのかな。」
C「消防士さんは火の中に入って助けないといけないけど、消防団の人は火の中に入らないからです。」
T「火の中に入るとも危険な仕事だから、消防服が違うんだね。」
C「仕事じゃなくて、手伝うから消防服が違います。」
T「さっきから、手伝うということに気付いていますね。手伝うということを協力という言い方をします。原さんが火を消すには消防団の協力がなくともまくいかなと言われましたね。」みんなにも協力してほしいことがあると言われましたね。」
C「火遊びをしないことです。」

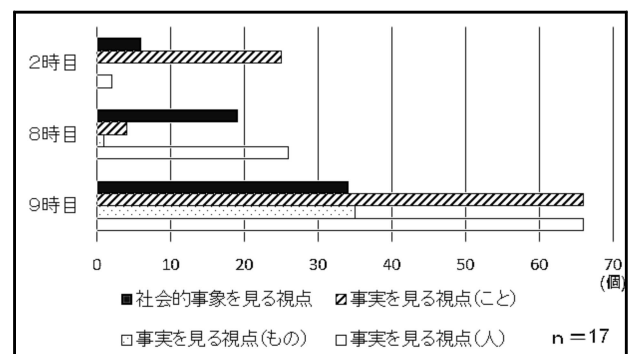


図4 「社会的事象を見る視点」の数の変化

資料1 8時目の発言内容

このことから「事実を見る視点」から関連があるものをまとめるようになったと考えられる。

9時目では、根拠となる「事実を見る視点」と「社会的事象を見る視点」(54頁表2, 55頁表3)を通して、学習問題に対し自分の考えが表現できたかをワークシートの記述から検証した。

まず、抽出児の学習問題に対する予想と自分の考えの記述を基に、根拠を挙げて表現できたかを検証する。

表5 抽出児のプロフィールと検証授業②における学習問題に対する自分の考えの記述

	N児	S児
プロフィール	学習問題に対して、じっくり自分の考えをまとめていく。友だちとの交流活動では発言は少ないが、話をよく聞き自分の考えは伝えることができる。	学習問題に対して、ゆっくりではあるがまじめに調べ活動をする。発言はあまりないが、自分の考えはもっており、必要なことはととつと話したり短い文章で書いたりすることができる。
2時目予想 (ワークシート)	多くの人で消した方が早いから。多くの人を守るように、一人では消せないから。	火が強くなったり地の家にうつらないようにするため。
3時目ふりかえり (ワークシート)	早く行くために、ふだんは整理整頓をして火事に行くとき早くいけるようにくふうしている。	早く助けるために練習を毎日している。火事の時、早く助けること。
4時目ふりかえり (ワークシート)	火事の時は早く出動できるように消防服を着ていて、ふだんはあんまり寝ていない。	早く出動するため着がえてる。火事の時早く出動する。1分で着がえて出動する。
5時目《検証Ⅰ》 新しい問題の予想 (ワークシート)	活動と服装がちがうと思う。赤でも行ける。働く時間。消防団はいつも自分の仕事、火事の時だけ。火事に備えた仕事をときどきする。	同じ服がちがう。持っている物ややっていることがちがう。
8時目《検証Ⅱ》 自分の考え (ワークシート)	みんなの命、ざいさん、安全を守って、安心して町が平和になるようにしている。	たくさんの命を守るためにたくさんの人が来る。
9時目《検証Ⅲ》 自分の考え (ワークシート)	消防署と消防団は消防車の種類や仕事がちがうけど同じ所もあって車の点検は、消防署と消防団はしているけどちがう所が多いけど協力しながら活動をしている。	火を消して、消防署や消防団が火事でなくならないため、多くの人で早く消しに来る。高いところにいる人も、はしご車で助けて、人を最初に助けて、最後にホースで火を消す。
9時目 自分の考えの基になる 使った方がよい言葉	消防署 消防団 消防車 仕事 車の点検 協力	消防署 消防団 ホース 消防自動車 はしご車 訓練
	消火に欠かせないから 人数が足りないから 消防車にはいろいろな種類 消防署と消防団は仕事かどうか 重要な時に動かないといけない みんなで手伝いながらしている	火を消すため、人の命を守るため 消防署のお手伝いをしている 火を消せるから、強力な火も消せるから すばやく行ってホースで消火する。(ぜったい) 高いところにいる人を助ける。 訓練をして、早く助けるため

まず、N児について考察する。

N児の記述を見ると、2時目では、学習問題に対し「消火」という目的を述べて「多くの人で」と記述しているが、どのような人が来ているのかは書かれていない。しかし、ゲストティーチャーの話を聞いたり教科書等で消防署の仕事を調べたりすることを通し、火事に備えた活動を見いだしている。そのため、5時目の新たな課題に対しては、消防署と消防団は、活動や服装、仕事が違うのではないかと予想し、事実を見る視点が広がり、発見カードには「消防団の道具」「服装のちがい」「働く時間」を調べることにつながったと考えられる。実際の調査活動では、消防団がある理由についてゲストティーチャーに尋ね、自分の町は自分で守ることが分かり、2時目の「守る」が8時目では社会的事象を見る視点Ⅰの「守る」となり、「消火すること」の意味付けと「安全を守ることが安心な町」という社会的事象を見る視点Ⅲの概念がつくられようとしていることがうかがえる。

また、9時目では、2時目の「多くの人」は、事実を見る視点から得られた「消防署と消防団」だったことが述べられ、2つの相違点と類似点を比較し関連付けができ「協力」という社会的事象を見る視点Ⅰがつけられたことがうかがえる(図5)。消防署と消防団は、仕事の違いはあるが、目的は同じだから「協力」しているという社会的事象を見る視点Ⅲを関連付けて自分の言葉で表現することにつながったと考えられる。

次に、S児について考察する。



図5 9時目で用いた児童とつくり上げた「事実を見る視点」をまとめた表

S児の記述内容から見ると、学習問題に対し2時目では「火が強くなったり、他の家に移ったりしないようにするため」と生活経験からの予想をしている。しかし、だれが、どんな目的で集まっているかということは考えていない。その後、ゲストティーチャーの話の聞いたり調査活動をしたりすることを通し、早く助けるために早く出動する、そのために訓練をするという消防署の働きを理解している。そのため、5時目の新たな課題に対しては、消防署と消防団は「服や仕事内容が少し違うだけだ」と予想し、事実を見る視点が広がり、「もの」と「こと」の両面で比較しようとしていることがうかがえる。

8時目では、消防署と消防団を比較し、類似点からどちらも「命を守る」ために多くの人があると社会的事象を見る視点を見いだしたことがうかがえる。9時目は、2時目と比較すると「火を消す」には消防署と消防団が必要なことを理解しており、「消防団や消防署」と「火を消す」が関連付いて、「命を守る」という社会的事象を見る視点Iがつくられたことがうかがえる。また、消防署と消防団が関連付いて「手伝っている(協力)」という社会的事象を見る視点Iもつくられている。事実を見る視点を通じた情報が「人・もの・こと」に広がったことで事実同士の関連付けができ、社会的事象を見る視点を通して、社会的事象について考え、根拠をもって表現することにつながっていると考えられる。そして、「火を消すこと」と「人を助ける」ために必要な「もの」である「はしご車」や「ホース」も理由付けをし、自分の言葉で説明し表現の高まりが見られる。

表6 2, 8, 9時目における児童の具体的な視点

		児童の番号	1	S	N	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
事実をみる視点	人	消防署	◇☆	☆	☆	☆	☆	◇☆	◇☆	◇☆	◇☆	☆	☆	◇☆	☆	◇☆	◇☆	☆	◇☆	
		消防団	☆	☆	☆	◇☆	◇☆	◇☆	◇☆	◇☆	◇☆	☆	☆	◇☆	◇☆	☆	◇☆	☆	◇☆	
		通信指令室																		
	関係機関	警察署				☆				☆	☆									☆
		救急病院	☆							☆	☆	☆	☆	☆	☆		☆			☆
		ガス会社										☆			◇☆		☆			
		電力会社										☆			◇☆		☆			
		水道課										☆			☆					
		地域の人														◇			☆	
		みんなの	☆		◇															
	その他	地域、町、市			◇			◇	☆							☆				◇
		けが人						☆		☆	☆	☆	☆		☆		☆			
		やじうま											○							
		逃げ遅れた人											○							
		消防(自動車)	☆	☆	☆		☆	☆	☆	☆			☆	☆	☆	☆			☆	☆
	もの	ポンプ車									☆									
		はしご車		☆																
		救急車						☆			☆	☆	☆	☆	☆		☆			
		水													☆	☆			☆	☆
		ホース	☆	☆																☆
		消火栓	☆					☆								☆				☆
		消防服																	◇☆	☆
		はつぴ																	☆	☆
		119番																		☆
		火を消す(消火)	☆	☆	○☆		◇○☆	☆	○☆	◇☆	◇☆	◇☆	☆	○☆	○☆	○☆	○☆	☆	☆	☆
	こと	燃え広がらない									○☆	☆			○					○
		うつらない		○								☆								○
出動する																	☆		○	
知らせる													○						☆	
人を助ける(救助)		☆	☆			☆	○☆	○	☆	○☆		☆	○☆	☆	○			☆	◇☆	
人を探す(捜索)									☆	☆				○						
手当て									☆	☆										
運ぶ							☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆						
通行止め(交通整理)							☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆						
備え		防ぐ			☆		○										☆			☆
	点検					☆			☆										☆	
	検査					☆													☆	
	訓練		☆				☆					☆						☆	☆	
時間	備える(準備)																			
	早く		☆						○				○	○☆	○	○	☆		○	
社会的な事象をみる視点	命	☆	◇☆	◇				◇☆	☆	☆		☆	◇	☆	○			○☆	☆	
	財産			◇				◇☆					◇	☆						
	協力		☆	☆	☆				☆	☆		☆	◇☆	☆	☆	◇☆	☆	☆	◇☆	
	守る	☆	◇☆	○◇			◇	◇☆	○	☆		☆	◇	○☆	○☆	☆		☆	☆	
	安全			◇				☆											◇	

○：2時目 ◇：8時目 ☆：9時目

最後に、学級全体を考察する。

2, 8, 9時目において児童が記述している具体的な視点の変化(表6)を基に学級全体の変容を検証

する。8時目と9時目で社会的事象を見る視点が増加した。8時目に、消防署と消防団を比較することで、類似点と相違点から社会的事象を見る視点を通して「安全」「協力」「守る」という言葉が書かれている。「火を消すこと」「人を助けること」の背景を考えたことがうかがえる。

9時目は、これまでに積み上げてきた事実を見る視点が、「安全を守る」ことや「協力」することの根拠となり表現されている。また、これまでに見つけた事実を見る視点のうち、学習問題に対して必要な言葉だけを選択して使っていることが分かる。これは、少人数や学級全体での話し合い活動を通して自分の判断だけでなく友達のを踏まえながら、適切な言葉を選択したと考えられる。

児童は、単元を通して、消防署の仕事は「火を消すこと」という事実の理解に終わるのではなく、単元の目標でもある関係機関と協力して私たちの生活の「安全を守る」仕事ということを理解できた。

「人・もの・こと」から事実を見る視点を洗い出し、見学して分かる目に見える事実を比較し、関連のあるものをまとめていくという段階を入れることで、社会的事象を見る視点をつくりだした。つまり、事実を見る視点づくりから根拠となる事実を見だし、社会的事象を見る視点づくりから理由付けができるようになり、学習問題に対して自分の言葉で表現できるようになったことがうかがえた。

このような学習を繰り返すことで、社会的事象の特色や相互の関連を考え、自分の言葉で根拠をもって表現する児童の育成につながったと考える。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ 児童とともに「事実を見る視点」と「社会的事象を見る視点」をつくり上げることで、社会的な見方が広がり、これからの社会科で生かせる社会的な見方・考え方がつくられるようになった。
- ・ 児童は、つく上げた視点を通して、社会的事象を見るようになり、その意味を考える活動を行ったことで社会的事象の特色や関連を考えるようになってきた。そして、社会的事象に対して根拠をもって自分の考えを表現できるようになってきた。

(2) 今後の課題

- ・ 自分の考えを記述するときの、より適切な表現方法の指導の在り方
- ・ 社会的な見方がより広がるようにするための交流活動の工夫

《引用文献》

- 1)2) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会科編』平成20年 東洋館出版社 p. 5
- 3) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会科編』平成20年 東洋館出版社 p. 20

《参考文献》

- ・ 小原 友行著 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン小学校編』2009年 明治図書
- ・ 安野 功著 『社会科授業力向上5つの戦略』2006年 東洋館出版社
- ・ 澤井 陽介著 『小学校社会授業を変える5つのフォーカス』2013年 図書文化社
- ・ 松尾 正幸／佐長 健司編著 『ディベートによる社会科の授業づくり』1995年 明治図書